



# 迦陵園だより

平成26年10月 発行  
 社会福祉法人 迦陵園  
 (児童養護施設)  
 〒606-0802  
 京都市左京区下鴨宮崎町109  
 TEL (075)701-0250  
 発行人 松浦弘和  
 編集 迦陵園編集部

## 迦陵園 基本方針

### — 養育目標 —

- ◎ 子どもの命と人権を守る。
- 人間性豊かな子を育てる。
- 心身共にたくましい子を育てる。
- 健全な社会人として生きていけるような子を育てる。



## 実りの秋です



施設長 松浦 弘和

実りの秋となりましたね。迦陵園の子どもたちも夏の間いろいろな体験をし、それが大きく実を結んできました。

8月、滋賀県長浜市にある大見いこいの広場で1泊2日のキャンプを行いました。雨が降ったり止んだりのあいにくのお天気でしたが、バーベキューや花火など屋外での活動時は降ることもなく、楽しい夏の思い出となりました。園の子どもが一人も欠けることなく参加できたのは初めてのことです。皆の連帯感が強まっているためでしょう。いつもと違う環境で年長の子が自然に年下の子どもたちを助け世話をしている姿を見て、このようなことまでできるようになったのだと感動しました。

夏休みを利用して中・高校生は、中小企業家同友会社会問題研究会の方々の協力の下、職業体験実習を行いました。春休みに続いて2回目の試みです。レストラン、ケーキ屋、木工所、介護施設と本人の希望にそった職場が用意されました。学校から行く職業体験と違い、一人で大人ばかりの職場に実習に行くのですから、どの子も、職員も緊張し大丈夫かと不安を抱えて始まります。しかし自分が興味を持った職場にいくためか、園に帰ってきたときの表情はみな晴れ晴れとしています。園や学校ではできない体験をし、どの子も数日間で成長することには驚きました。

9月24日には職業体験の報告会を開催しました。中小企業家同友会から多くの方々が参加してくださいだったので、これだけ多くの大人を前にしてきちんと発表できるのかと心配でした。しかしどの子も自分の言葉でしっかりと体験したこと、学んだことを発表することができ、思っていた以上に成長していたのだと改めて感じました。報告会に参加いただいた方々からも、「よく頑張った」、「話を聞いて感動した」とほめていただき、子どもたちの自信につながったようです。働くということに対して明確なイメージを抱くことができ、「こういう仕事がしたい」という具体的な目標を持てた子もいます。これからは多くの子どもたちに職業体験をしてほしいものです。

貴重な体験をした夏が終わり、成長した子どもたちは勉強に、遊びに、アルバイトに励んでいます。子どもたちが実りの秋を迎えることができたのも、迦陵園をご支援してくださる皆様、また真剣に子どもたちに向き合ってくれている職員のおかげです。ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

迦陵園の子どもたちが卒園後にそなえて頑張っている様子を、NHKが長期取材して下さっています。放送される際には改めてお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

## 新任挨拶



調理師 野口 晴美

9月より、調理師として勤めさせていただくことになりました、野口晴美と申します。食事作りを通して子どもたちの成長を見守るとともに、自分自身も学ばせていただきたいと思っております。

ご指導の程、よろしくお願い致します。

## 園での活動

### 早 A 勤務について

児童指導員 久保 祐介

今年度より、現場の職員も調理に携わる一環として、朝の食事作りをする早 A 勤務がスタートしました。開始当初は慣れない調理に戸惑い、子どもたちからも「今日の味噌汁、あまり美味しくない」とお叱りの声をもらう事もありました。しかし調理の職員に手助けをしてもらったり、料理上手な先輩職員に教えてもらいながら少しずつ上達し、子どもたちからも「今日はいいかも」「前より上手くなった」と褒めてもらい、そこからまた会話が弾み、関係が育まれる事もあり、励みとなっています。褒めてもらうと不思議なものでもっと頑張ろう、もっと美味しくするにはと考えだします。ふとその事を振り返った時、食育とはこういうものなのかと感じました。単に美味しい料理を提供するだけではなく、この子どもたちの為に作ろうと愛情を込め、またそれを子どもたちもどこかで感じながら食べる事で普段の関係までもよくなっていく。開始当初の不安はなくなり、今では早 A 勤務の日を楽しみながら過ごす事ができています。

### 岡山研修

児童指導員 竹内 萌

9月8日～10日までの3日間、岡山県で行われた西日本児童養護施設職員セミナーに参加させていただきました。初めての出張で、イメージも湧かず、少し緊張していましたが、特に2日目の分科会では、他府県の方々とのグループセッションということで肩に力が入りました。私が参加した第二分科会では、年長児の移行支援・中退児童への対応をテーマに、それぞれ工夫していること・困っていることを事前課題として持ち寄り、意見交換をしました。取り入れたいなと感じる意見もあり、また京都同友会さんの紹介をしたところ、みなさん大変興味を持たれていました。

第六分科会では、実際の現場で児童にジェノグラムを用いて、子ども自身の家庭状況を説明するという方法を教わりました。今まで耳にしたことのない話で驚きましたが、他施設で実践されているとのことで興味深いお話でした。

また講演会では、児童福祉の父、石井十次についてや、医科学の観点から見たいじめ・虐待についてなど、様々なお話を聞くことができ、大変勉強になりました。研修で得たものを今後活かしていきたいと思えます。

## 夏野菜作り

児童指導員 川邊 直樹

こんにちは、今年の夏も迦陵園の畑で野菜を作りました。今年はキュウリ、ゴーヤ、大玉トマト、オクラを栽培しました。

キュウリとゴーヤはネットや柱などに蔓を絡みつかせ成長していき支柱やネットなどは欠かせないものです。そこで、同じ場所で作れば手間が省けると考え一緒に育てることにしました。植付け当初はキュウリもゴーヤもぐんぐん成長し、毎朝野菜の成長を見るのが楽しみでした。

しばらくすると成長が悪くなってきている気がしましたが気のせいだろうと思い栽培を続けました。しかし、成長が遅い事が気になったので出町柳のたねげんさんのアドバイスや私なりに調べた結果、苗と苗が近い事、畝が小さい事が原因で成長が遅くなっているのではないかとの結論にいたりしました。また、今年は日照時間が短かったこともありさらに成長が悪く感じられました。

今年はキュウリが 100 本そしてゴーヤが 20 本程度の収穫でした。100 本と聞くと多いのでは、と感じる方もおられるかもしれませんが昨年は 150 本キュウリを収穫することができました。私は気候の影響も勉強になりましたが、手を抜いては良いものが出来ないということが今年の夏の一番の勉強になりました。私は次回からはしっかり手間をかけていきたいと思います。

しかし失敗ばかりではなく、トマト、オクラはたくさん収穫することが出来ました。トマトはカラスや猫に食べられないようネットを設置したり、オクラの脇芽を定期的に切ったりと手入れを行いました。やはり手間をかけると良いものができるのだなど実感しました。

野菜作りは天候に関係なく毎日のように作業をする必要があります。面倒に感じる日もありますが上手に出来た時の喜びを考えると楽しく感じられます。

次は大根、イチゴを作る予定です。どうしたら美味しく、そしてたくさん作ることが出来るか勉強していきたいです。

## 南山堆肥作り

児童指導員 梅津 幸生

やきにくの南山さんの堆肥作り講座に参加させていただきました。土と生ごみを混ぜると良い堆肥になるという話を伺い、実際に堆肥作りに挑戦しました。初めは生ごみに抵抗があった子どもたちですが、次第に職員と一緒に堆肥作りに参加できるようになり、生ごみから堆肥ができることに驚いていました。今後は迦陵園でも生ごみを使った堆肥作りを行っていきたいと思います。

また今回作った堆肥は迦陵園に寄贈していただき、この堆肥でイチゴを育てる予定です。きっと美味しいイチゴが収穫できることと思います。収穫が待ち遠しいです。

南山堆肥作り



京都サンガ F C 招待



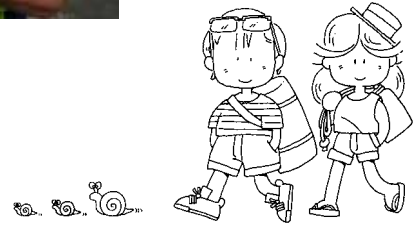
王将招待



手づくりうどん&そうめん流し



### 夏期行事



### 日 常



## 招待行事

### ドラゴンゲートプロレス招待

主任児童指導員 松本 悟史

7月12日に5月に引き続きドラゴンゲートプロレスに招待していただきました。

今回の招待では、毎回参加させていただいている子どもたちはもちろんのこと、初めて観戦する子もいました。

今回の大会の中で、一番子どもたちが声援を送っていたのは、リコシェ選手でした。みんなリコシェ選手の華麗な技の数々に大興奮し、気が付けば初めて観戦した子もみんなと一緒に声援を送っていました。

初めて観戦した子も、次また観戦に行かせてほしいと話していました。こうやって、同じ楽しみを持つ子どもたちが増えていくのも、継続して招待していただいているおかげだと思っています。

いつも招待していただいているドラゴンゲートプロレス様、およびRプランニング様本当にありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

### 京都サンガF C招待

児童指導員 松吉 政和

7月13日に京都サンガF Cさんの招待で現役の選手との交流をさせていただきました。

迦陵園からは小学生から高校生までの男の子が参加し、ボールを使った遊びやミニゲームに汗を流しました。ミニゲームでは現役選手の華麗な足さばきと軽快なフットワークに子どもたちは翻弄されてんやわんや、さすがプロの選手といったところをみせてもらいました。子どもたちも負けじと、数に物を言わせて攻め勝っていました。

最後は全員で記念撮影、フラッグやサインをもらいご満悦な子どもたちでした。このような機会を作っていただきありがとうございました。



## 王将招待

主任児童指導員 松本 悟史

9月3日、今年も(株)王将フードサービス様よりご招待を受け、多くの児童、職員が参加させていただきました。

日頃より子どもたちの食に対する欲求は本当に高く、食の大切さを痛感している私たちにとって、この毎年の行事は本当にありがたいもので、この行事の時は、どの子どもも、普段なかなかみせてくれないような笑顔で次々と料理を食していく子どもたちの表情をみていると、こちらも幸せな気持ちになってきます。ただ、その反面、礼儀などの面でいきすぎたことをする子らもあり、そういったことも今後はきちんとできるようにさせていきたいということも今年は感じました。

毎年このような企画を立てていただいているからこそ、子どもたちの良い面も課題もみえてきたのだと思います。

このような機会を作っていただいている(株)王将フードサービス様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも宜しくお願い致します。

## 京都の秋音楽祭コンサート招待

児童指導員 澤 亮太

9月14日、天候にも恵まれコンサート日和となりました。私自身、コンサートを鑑賞するのは中学校以来ですので、どのように受け止め方が変化しているのかとても楽しみにしながら子どもと向かいました。

演奏が始まると同時に、頭をリズムカルに揺らしながらピアノの音色や音の重なるハーモニーを楽しんでいました。二曲の演奏を聴きましたが、曲調の違いを楽しむ事ができて満足そうにしていました。彼女は小学校低学年の時に合唱団に入っていた経験もあり、とても感情的になったと語ってくれました。本格的な演奏を聴く機会は滅多にないと思いますので、とても良い経験になりました。ありがとうございました。

## 女子プロ野球招待

主任児童指導員 松本 悟史

9月14日に今年三度目の女子プロ野球観戦に招待していただきました。

前回の女子プロ野球観戦の際、始球式をつとめた子に対し、この夏休みにわかさ生活様よりグローブを寄贈していただいていたこともあり、そのグローブを今回大事そうに持って行って応援していました。

また今回は、普段あまりみられない関東の球団の選手の試合もみられるということで、今までとまた違う白熱した試合も見ることができたこともあり、子どもたちの応援にも熱が入っていました。

試合後は、選手のみなさんと交流し、サインをもらう時間もあり、子どもたちは本当に嬉しそうにサインをもらっていました。前回始球式をつとめた子は選手に顔を覚えてもらっていて、それが本当に嬉しかったようです。

こういった交流を続けさせていただいていることは本当に嬉しく感謝しかありません。今後とも宜しくお願い致します。

## 子どもたちの活動

7月19日 里山づくり

児童指導員 竹内 萌



毎月恒例の里山づくりですが、私は今回が初めての参加でした。初めてではありましたが、子どもたちがいつも楽しみにしている様子を見ていたので、どんなものか私自身ワクワクしていました。

当日は猛暑で、溶けてしまいそうなほど暑い日でしたが、それでも子どもたちは走り回って虫を追いかけたり、昼食のカレーづくりを手伝ったりと元気いっぱいでした。草刈りを機械でやらせてもらっている子もいました。どんどん出来る事が増える子どもたちを見ているととても嬉しくなりました。昼食のカレーもお

いしく頂き、良い疲労感と共に、大満足で帰ることができました。

このような機会をたくさん頂けることに本当に感謝です。ありがとうございました。

## 鴨川水質調査

主任児童指導員 若林 里仁

とてもとても暑い日でした。出町柳の高野川と賀茂川の合流するデルタに集まり、まずは賀茂川で生き物探しと検査薬を使って、水質調査を行いました。

川辺に生えている草の根元に網を当てて、足で踏んで虫たちを捕まえます。稚魚やヤゴなどの幼虫がびっくりして飛び出してくるのです。その生き物の種類で水のきれいさ・きたなさを知ることができます。

少し鴨川も汚れてきてしまっているようです。子どもたちの貴重な遊び場は、何とか綺麗に保っていきたいものです。

深さの増す高野川では、皆で協力して大きな鯉を捕まえようとしたのですが、あと少しで逃げられてしまいました。来年にはリベンジしたい！





## 大見いこいの広場キャンプ場

主任保育士 脇戸 真実子

今年の夏季行事は大見いこいの広場へ行ってきました！

1 日目は、トリム（ジャングルジム）で、大人も子どもも一緒になって遊びました。やはり子どもは遊びの天才で、すぐに新しい遊びを見つけてしまいます。気が付けば大人の方が夢中になっていましたが・・・。

夕食の BBQ の後は、肝試しを行いました。雰囲気のある神社まで歩きます。幼児や女の子は号泣で大成功でした！でも一番怖かったのは脅かし役の子だったのかもしれませんが・・・。夜は男の子が不満を漏らしながらも、仲良くテントで、女の子はコテージでぐっすり眠りました。

2 日目はラジオ体操に始まり、体育館でレクリエーションをしました。和気藹々とした雰囲気で、皆の笑顔がキラキラと眩しかったです。

午後は川遊びです。魚を見つける子、飛び込む子、石を積み上げる子、皆がそれぞれに川を満喫していました。

今年のキャンプは離脱者もなく、全員参加できました。来年も安全で楽しいキャンプにしたいと思います

## 手づくりうどん&そうめん流し

主任児童指導員 若林 里仁

夏といえば、そうめんですね。子どもたちも大好きです。

園庭での流しそうめんを予定していましたが、何かもう一工夫したいと思い、子どもたちとうどんを作ることに初チャレンジ。はじめは、幼児の皆が順番待ちの列を作ってうどん踏み係をしてくれました。それを小学生が見本をやってみせたり、順番を守るようになだめてくれたりしていたことがとても微笑ましい光景でした。日常生活の中でも年長の子どもたちは幼児の面倒をととても良くみてくれています。

さて、うどん作りですが、仕上げは中高生の女の子が手伝ってくれました。しっかり踏み広げて伸ばした生地を折り重ねて、細く切っていきます。その作業がまた難しかったのですが、私より子どもたちの方がすぐにコツを捉えて上手に切ることができていました。切ったうどんを茹でて食べてみると、これがまた美味しくて、皆がたくさん踏んでくれたのでコシの強いうどんができあがりました。

夕方から雨天となり、残念ながら園庭ではできませんでしたが、食堂で屋内流しそうめんを強行しました。作ったうどんも流して皆で頂きました。やろうと思えば、やれるものです。

## 育リンピック 9.15

保育士 名越 育未

育事協とオリンピックをかけてネーミングされた、育リンピック。他施設の小学生同士交流を深める運動会で行きの車中から子どもたちはテンションが高くどこかソワソワしていました。園からの参加は 4 人と少なかったですがみんなそれぞれで頑張っていました。競技は、小豆掴み・フラフープ転がし・頭に段ボールを乗せて歩く競技の 3 種でした。園の子どもは段ボール乗せが低学年の部で 3 位入賞！手を高く上げバランスを取り一生懸命頑張っていました。

## 同友会の活動

### 夏の就労体験実習

児童指導員 澤 亮太

今回は 2 回目の就労体験実習となります。スタートして日が浅いので、いろいろ模索しながらより良い実習を目指していきたいと思っております。今回は飲食店・木材加工・工務店・デイサービス・お菓子作りなど色々な業種を児童がそれぞれ体験させていただきました。自分で希望した職種ということもあり、実習期間が終わった後に感想を聞くと、その仕事に関する想いや捉え方が行く前と違い具体的になり、一歩前進しているように感じました。実習期間中は様々な躓きも児童によってはありました。しかし、それは実際に思っていた仕事をやってみる過程で必ず出てくるものだと思います。マイナスな面とプラスの面、両面あってこそその就労体験だと思っておりますので、計画的に長い目で児童の支援に取り込んでいきたいと考えています。

### ファームステイでお世話になって

小 6 E・M

ぼくは、夏休み最後の一週間に野村牧場でファームステイをしました。野村牧場は、日本海のすぐそばにあります。近くには琴引浜海水浴場があります。海の近くの牧場に泊まりこみで、牛の世話をしました。

牧場では、毎朝えさの交換から始め、乳しぼりをします。座っている牛がいたら乳がしぼれないので、おしりをけって、起こします。初めは、本当にけっていいのか、とても思っていました、が普通に慣れてけるようになりました。乳しぼりが終わった牛には、木くずをまき、牛の足の痛さや、冷たさを和らげます。それを約 80 頭分やり、とてもつかれました。そのあとは、子牛の世話をしました。昨日のえさを変えて、またえさとおかしを入れます。子牛の部屋は、わけられていて、その中に入ってそうじします。おとなしい牛もいれば、暴れている牛もいて大変でした。それを、朝と夕方との 2 回するので、とても疲れしました。

しぼりたての、牛乳はいつも飲んでいる牛乳とは、味が違い、とても、おいしかったです。また作ってくださったカレーライスや、コロッケは、働いた後でもありとてもおいしく感じました。

ぼくは、野村牧場さんに行きいろいろな、経験をして、たくさんのお話を学びました。牛の育て方を、一から教えてください、子牛へのミルクやりや、牛の乳しぼりなど、貴重な体験をさせていただきました。仕事の、大変さを、知りました。とても疲れしましたが楽しいことも、沢山ありました。

ありがとうございました。

ご支援心から感謝いたします

金品等ご寄贈、行事招待の方々 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 (寄贈順 敬称略)

新多良子 / 京都環境事業協同組合 / (株) さくら / 和田寶鏡 / 五十嵐商店 / (株) チュチュアンナ / 京都さくらロータリークラブ / 協同食品 (株) / (株) プロレスリングノア / (株) ドラゴンゲート / (株) 朱常分店 / 森下徹 / (株) コンセプト / 全日本プロレス / 京都洛中ロータリーアクロクラブ / 洛和会ヘルスケアシステム / (株) 王将フードサービス / ウェスティン都ホテル京都総支配人 / 齊藤悦啓 / 京都 TUBASU 祭り実行委員会 / 京都中国料理厨师会 琢磨会 / (株) サムライインキュベート / (株) GEN スポーツエンターテイメント / 同志社大学 福祉学科活動 迦陵園 子供会 / (株) 牟尼庵 / (株) ワコール / 下鴨学区民生児童委員協議会 / 下鴨学区社会福祉協議会 / 京都洛中ロータリークラブ / (株) わかさ生活 / 賀茂御祖神社 / 伏見稲荷大社 / (株) ベックアンドカンパニー / 一般社団法人 京都馬主協会 / 神道青年会 / 平安神宮全国銘菓献饌奉賛会 / 京都卵業協会 / 岸利江子 / 京都青果会 / 京都市食肉青年会 / 加藤美子 / 田中正也 / 永井隆之 / 京都タワー (株) / 全国シャンメリー協同組合 / 信ヶ原千恵子 / 宇高節子 / 谷口美津子 / 京都市役所環境政策局東部まち美化事務所 / 小林三原 / 岡勝農園 / 古田真理 / 井上八千代 / 同志社大学文化情報学部夢を贈り隊ルフラン♪ / ハーモニッククラブ / 大登建設 (株) / 勝村一夫 / (株) スイートガーデン / 永塩商店 / 山田裕子 / レストラン思風都 / 下鴨小学校 / 日本鏡餅組合 / (株) エリッツホールディングス / 美鈴サンタ / 洛南高等学校・付属中学校生徒会 / 松久宗琳佛所 / 井上果物店 / 京都豆菓子協同組合 / (株) どこいこ / 公益法人オリックス財団 / 京都ロイヤルライオンズクラブ / 地方紙正月連合企画係 / リストランテ ストラータ / 京都土地家屋調査士会



**児童養護施設におけるセラピストの仕事の実際 第 3 回****～気持ちを考えるということ～**

心理療法士 横山 隆行

セラピスト（心理療法士）という仕事をしていると、ある一つの行動だけを取り出して、「これって心理的にどういうことですか？」と聞かれることが多い。そう聞かれると大抵、私は答えに困ってしまう。聞いている人は純粋にどういった心理なのか聞きたいのかもしれませんが、ある一つの言動の意味を考えると、それがどのような背景を持った人がした言動なのかで意味合いが変わってくることもあるでしょうし、その時の状況や前後の文脈によって違ってきます。よくテレビなどで芸能人が心理テストをして、心理学の専門家がこういう心理ですと答える番組がありますが、それは大まかな分類や可能性の一つを言っているに過ぎません。

では、セラピー（心理療法）ではどのように相手の気持ちを知っていくのでしょうか。私は迦陵園に入所している子どもと週に 1 回 50 分を一緒に過ごします。小さな子どもは遊びを通して、思春期や青年期の子どもとは対話を通して相手のことを知ろうとします。例えば小さな子どもの場合、玩具を使って何をどのように表現したか、私が話しかけた時にどのような反応を示したか、終了時間や休みの前になるとどう行動するのか、私が子どもと接していてどのように感じたのかなどから考えていきます。このようなことを子どもの相手をしながらセラピーの場面で瞬時に考えることは難しいので、セラピーが終わると記憶を頼りにその日の詳細な記録を取ります。それこそ子どもが何をして何を言ったかという事細かな記録です。この記録を取りながらじっくりと考え、この子にはこういう気持ちがあるのかもしれないと仮説を立てていきます。次のセラピーではその仮説を頭に入れて子どもの表現を見ていき、その仮説を検証します。もし違っていれば、また別の仮説を立てて検証します。セラピーではそういった作業を繰り返して相手の心をできるだけ正確に深く知ろうとするのです。

つまり、様々な情報を総合的に考慮して相手の気持ちを考えていく。これが私のような心理療法士の専門性の一つだろうと思います。どうしてこれだけ手間や時間がかかるのでしょうか。それは人間には自分で意識しにくい無意識の領域があることと、防衛と呼ばれる感じたくない気持ちを考えないようにする機能が働くからです。

セラピーを通して見えてくる子どもたちの気持ちはとても辛いものです。自分には価値がない、無力だ、いつも何かに脅かされていて怖い、誰からも愛されない。そういった気持ちを自分の無意識の中に押し込めていてはいつか破綻したり、社会生活を送っていく上で様々な支障をきたします。セラピーはそのような辛い気持ちを表現する機会を提供し、理解して受け止め、本人が受け入れられる形で伝えていきます。そのような過程を何度も経験することで、子どもは自分の気持ちを自分で考えられるようになっていくのです。

**編集者からの  
ひとこと**

夏休みということもあり子どもたちは色々な行事に参加したり、遊びに行ったりと有意義に過ごしていました。多くの思い出が出来たのではないのでしょうか。

季節が変わり肌寒くなってきました。子どもだけでなく職員も体調不良者が出ております。これから受験を控える子どももいます。日々の手洗い、うがいなどで予防をし、蔓延させないよう気をつけていきたいと思っております。

編集委員 松吉 政和